



# 春

## 京都御苑百三十年 ～幻の公家町をしのぶ 名木のその後～

小沢 晴司



**発行人**  
〒602-0881 京都市上京区  
京都御苑3番地  
☎075-211-6364  
財団法人 国民公園協会  
京都御苑 木村博司  
**編集**  
（白川書院）  
**監修**  
環境省京都御苑管理事務所  
本紙は100%再生紙を使用しています。

京都御苑百三十年  
京都では、今年、源氏物語が記録（紫式部日記）の上で確認されてからちょうど千年を迎えることから、「源氏物語千年紀」と称し、関係事業が様々に展開されます。  
京都御所の紫宸殿や清涼殿等のたたずまいは、源氏物語が描かれた当時の宮廷の様子を彷彿とさせ、御所を囲む樹林と苑路も古人の夢の世界へ誘うプロムナードとなることでしょう。

今年、京都御苑がその命名とともに整備されてより百三十年になります。  
「寺町」の城下町でもみられたが、京都にしか存在しないのが京都御所と公家町である。  
公家町とは、明治開始まで朝廷政務の枢要を取り仕切る撰政・関白職に代々任じられた近衛家、九条家、二条家、一条家、鷹司家の五摂家を最高として、百三十余を数える堂上公家の屋敷をはじめ、各親王家の御殿、寺院の御里坊などが集中して立ち並んだ我が国希有の特別な空間でした。現在、京都御苑となる区域は、この公家町の広がりのおおむねを基盤に区画されたものです。立ち並ぶ御殿のほと



車 還 櫻

りません。苑南部の閑院宮邸跡や茶室拾翠亭、苑北部中山邸跡の明治天皇の産屋、近衛池や旧桂宮邸内の庭園遺構そして外周九御門。なお御門のほとんどは大内保存事業以前、より御所近くにあったのが移されたものです。  
もう一つ、公家町の記憶を辿ることができるとはと考えると、その数々です。  
「御苑の名木」  
雑誌「京都園藝」の過去号に公家町縁の名木に関する文があり

ます。昭和七年の宮内省高橋氏の稿(2)と昭和三十年の初代京都御苑小川所長によるもの(3)です。各稿冒頭は当時の状況を想像させて興味深く、多少長くなりませんが一部引用します。  
昭和七年高橋氏の稿に曰く「御苑新に御所の周りに御所御殿や堂上方御邸宅もお取拂になり、跡にはお庭の樹木のみの残り周囲の石垣が築かれて御苑の一角を成し更に小松を植添へ度々の苑路變更などもあつて今の姿は出来上がったのであるが、さぞや珍木、由緒木に富むであらうとは誰しも考へずらぬ。其處で敢て浅才を省みず其の由緒を語るもの、宮家堂上の御邸址を示すもの、園藝的に面白いもの、又単に珍しいもの等につき概要を申上度いと思ふ。先づ御苑内でも由緒に富む名木は、勸修寺伯爵の御著「古都名木記」に其名を載す故夫等を繰返しつつ

る。孝明天皇安政二年二月十四日近衛第行幸遊ばされ終日咲誇る櫻花を賞し給ひ且つ右大臣近衛忠熙公に宸筆の御製三十一首を賜つて居る」とあり、昭和三十年「残念ながら往事の絲桜は一株も無い。高橋氏当時植えられたと覚しき枝垂桜六株元気に成木、何れも樹齢二十年くらい」と記されています。  
昭和七年「銀杏、樟二本、榎と四本並んだ大木があり、就中見事

家址に當る。昔、後水尾天皇花時の御幸に宸駕を還させ屏外より御覽遊ばされた名花故斯く傳ふる由」とあり、昭和三十年に「同一場所近接して二株あり。昭和二十二年秋小高く盛つた上に桜の根生えらしきもの数本地に這へており調査したところ車還桜の株跡と分り早速人止柵を設け、客土するとともに深肥を施したところ漸く根生えが立上つて来たのである」と記されています。  
今は、記録の位置に数株がみられますが往事の株かは未確認です。

尚二三を追記する事としよう。  
小川氏昭和三十年の稿に曰く「戦時中御苑の樹木、芝生の手入れ出来なかつたこと無理からぬところであるが、食料増産寄与のため適宜開墾しても差支えないという、宮内大臣より京都市へ許可があり、また新炭自給の目標であつた等正に、危険期を経て参つたのである、終戦後多少の経緯があつたが国営公園として、厚生省国立公園部が管理をしている現在、これ等の名木類はどうなつてゐるかを御報告申上げて見たい。」  
続けて名木各論があり小川氏の稿は高橋氏の稿を重ねその後の状況を付記しています。  
本記事でも、先人に習い各記録を再掲し平成の現状を報告したいと思ひます。(紙面都合上一部のみ掲載・番号は図中の位置を示す)

昭和七年「今出川御門内西側御池の南に糸櫻の老株が點綴して

昭和三十年「現在三本並んで、御苑正面に莊厳さを保っている」とあります。今は数本の黒松があり、大木が二本認められます。

昭和三十年「御所の東昭和大禮の際大饗宴場の設けられた廣場北隣り小山の上にある」とあり、昭和三十年「ジーン颯風に向大枝折れたのは惜しい。本樹は雄木で隣の雌木と仲良く並んでゐる」とあります。現存します。  
現在、記録される名木の現状については調査途上であり、記録のない大木も苑内には多々あり、それらの由緒沿革についても引き続き研究を進めたいと考えております。関係情報等につきまして各方面からのご指導・示唆を賜りますようお願いいたします。  
（京都御苑 管理事務所長）

賀陽宮邸址ノ榎(6)  
昭和三十年「久邇宮御創建の朝彦親王が栗田青蓮院から服飾遊ばされて、しばし中川ノ宮を稱せられ、後此地に御殿を賜はつて賀陽ノ宮を稱せられたが夫は御邸内に有つた此かやの大木にお因み遊ばされたとも申して居る」とあり、昭和三十年「小山西土手側にあり榎等の大木と叢立になつてゐるため苑内より見えなくまた土手の樹に妨げられ四方からも見えなく、多少残念である」とあります。今は現地に確認できません。  
昭和三十年「凝華洞ノ松」と筋向の芝地内で二本丈け葉透し手入をした見事な赤松。道路間近のは鶴松で大炊御門家址に當り其西に見ゆるは龜松で五辻家址に當る」とあり、昭和三十年「相当な老木で見事であつたらしいが今はそれらしいものは見あたらぬ」とあり、今も見当りません。

昭和三十年「御苑正面に三本並んで、御苑正面に莊厳さを保っている」とあります。今は数本の黒松があり、大木が二本認められます。

昭和三十年「御苑正面に三本並んで、御苑正面に莊厳さを保っている」とあります。今は数本の黒松があり、大木が二本認められます。

### 自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。  
自然に学び、自然の調和をそこなわぬようにしよう。  
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

- (1) 村井康彦 文学と歴史旅行ガイド 京都部 一九九〇
- (2) 高橋英男 御苑内の名木に就いて(京都園藝第十七輯)
- (3) 小川三之助 御苑内の名木(京都園藝第四十一輯)
- (4) 清水谷家ノ榎
- (5) 榎波家ノ松
- (6) 賀陽宮邸址ノ榎
- (7) 鶴松
- (8) 黒木ノ榎
- (9) 鷹司家ノ黒松
- (10) 林丘寺御里坊ノ公孫樹